

2013年10月22日

米国皮膚がん財団の認証を自動車の窓ガラスで取得

AGC 旭硝子株式会社

AGC（旭硝子株式会社・本社：東京、社長：石村和彦）は、紫外線（UV）を約99%^{注1}カットする自動車用強化ガラス「UVベール Premium ®シリーズ^{注2}」と自動車用合わせガラス「ラミセーフ®」の2製品について、皮膚がんに関する代表的な国際組織である米国の皮膚がん財団（[Skin Cancer Foundation](http://www.skincancer.org)）の認証を取得しました。

米国の皮膚がん財団は、皮膚がんに関する教育、予防、早期発見および治療に積極的に取り組んできた権威ある組織です。同財団によれば、米国における皮膚がんの患者数は毎年200万人以上であり、症例は350万件を上回っています。

今般認証を取得した2製品は、紫外線をガラス単体で約99%カットする性能を持ち、国内外で多くの自動車に採用されています。

高性能コーティング膜により世界で初めて紫外線カット率約99%を実現した自動車用強化ガラス「UVベール Premium ®シリーズ」は、2010年12月に日本で発売し、運転席および助手席の日焼け対策としてサイドガラスを中心に採用が進んでいます。日本ではすでに25車種^{注3}まで搭載が増えており、今後は北米をはじめとして海外展開を目指します。

また、紫外線をカットする樹脂膜を2枚のガラスで挟み込んだ自動車用合わせガラス「ラミセーフ®」は、割れた際に破片が飛び散りにくく、衝撃物が貫通しにくい特徴があります。同製品は自動車のフロントガラスやドアガラスに世界で広く採用されており、今後も多くの車種への採用を目指します。

今回の認証取得に対して皮膚がん財団会長のペリー・ロビンズ氏は、「私たちは日頃から自動車を使うことが多く、車内における紫外線対策はたいへん重要です。衣服による紫外線の遮蔽、UVカットサングラスの着用などの対策に加え、UVカットガラスは紫外線対策の有効な手段です。」と述べています。

AGCは、UVカットガラスを広く提案し、同製品のグローバル市場への展開を加速していくとともに、今後もガラスの可能性を追求し、快適な運転空間の実現に貢献していきます。

以上

注1：弊社測定値。ISO9050 基準。

注2：一枚構造の自動車用強化ガラスの車内側に有機・無機ハイブリッド材料をコーティングし、世界で初めて約99%のUVカットを実現した自動車用強化ガラス。UVカット率約99%のUVベール Premium®と赤外線カット性能も高めたUVベール Premium Cool on®の2タイプがある。日本市場では、特にファミリーカーの魅力ある装備として採用が拡大している。

注3：2013年9月末現在

◎本件に関するお問い合わせ先：**AGC** 旭硝子(株)広報・IR室長 上田 敏裕
(担当:杉山 TEL: 03-3218-5603、E-mail: info-pr@agc.com)

<ご参考>

1. 認証ラベル

皮膚がん財団の認証基準を満たした製品には、以下の認証ラベルの表示が認められます。認証製品には、自動車・住宅用ガラスおよび窓ガラス用フィルム、日焼け止め、サングラス、日よけ・傘、衣類、洗濯用製品などがあります。

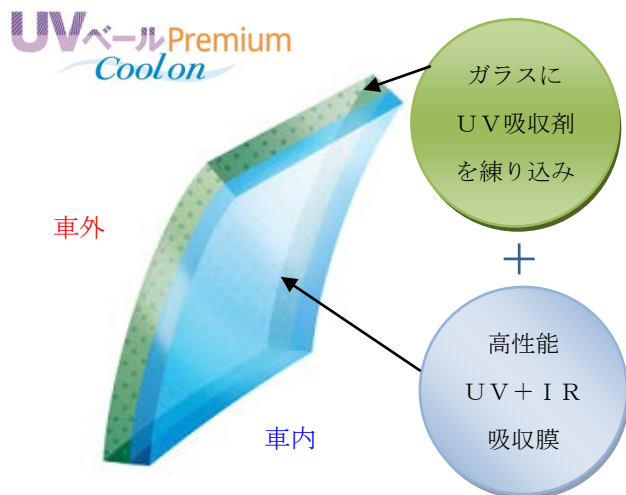


皮膚がん財団に関する詳しい情報は、以下サイトをご参照ください。

<http://www.skincancer.org/>

2. ガラスの構造 (イメージ図)

■ UVベール Premium®シリーズ



“UVベール Premium Cool on”に関する詳しい情報は、以下サイトをご参照ください。

http://www.agc.com/products/uv_premium_cool_on/index.html

■ ラミセーフ®

